

国際日本研究専攻後期

専攻共通科目(平成27年度以降入学者対象)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
02DMA02	プロジェクト演習4	2	1.0	2	通年	応談		国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	受講者は、自らの研究プロジェクトに基づいた博士論文の予備的論文を、指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組みの展開、主要な先行研究との関連、主要な素材分析結果、学問的な諸発見と貢献を提示するとともに、博士論文の中核となる諸章を発表する。	対面(オンライン併用型)

専門科目(ディシプリン共通科目)(平成27年度以降入学者対象)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
02DMC01	リサーチ・プログラム開発9	2	2.0	1	春ABC	応談		国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	自らの研究テーマに関して指導教員(複数)が望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はインターネット上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立って、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。レポートは「リサーチ・プログラム開発1,2,3,4」とは別のものではない。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。偶数年開講。 2024年度より2年おきに開講。OBBE000と同一。要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)
02DMC02	リサーチ・プログラム開発10	2	2.0	1	秋ABC	応談		国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	自らの研究テーマに関して指導教員(複数)が望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はインターネット上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立って、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1,2,3,4,5」とは別のものではなくてはならない。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。偶数年開講。 2024年度より2年おきに開講。OBBE001と同一。要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)

02DMC03	リサーチ・プログラム開発11	2	2.0	2					自らの研究テーマに関して指導教員(複数が見望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はインターネット上で公開することを原則とする。本演習では早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立って、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1,2,3,4,5,6」とは別のものでなくてはならない。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。奇数年開講。 2024年度より2年おきに開講。 OBBE002と同一。 2024年度開講せず。 要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)
02DMC04	リサーチ・プログラム開発12	2	2.0	2					自らの研究テーマに関して指導教員(複数が見望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はインターネット上で公開することを原則とする。本演習では早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1,2,3,4,5,6,7」とは別のものでなくてはならない。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。奇数年開講。 2024年度より2年おきに開講。 OBBE003と同一。 2024年度開講せず。 要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)

専門科目(リサーチ・プログラム開発)(平成27年度以降入学対象)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02DMD03	リサーチ・プログラム特別開発3	2	1.0	1-3	春ABC	応談		国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	本科目は英語等外国語による優秀な学術業績の成果産出を促す目的から開講するものであり、学生は指導教員および専攻長に履修の意思を示し、専攻教育会議において履修の適切性が審議・承認された場合において、その履修が認められる。学生は自らの研究テーマに関して、専攻長、指導教員、学位プログラム代表者等の指示する教材、文献、各種資料などを広く学習しつつ、海外の関連学会・シンポジウム・学術会議・公開講座等に参加のうえ発表をおこない、その発表詳細および学習成果について総括レポートを作成する。レポートは通常10回分の講義および予復習、外国語運用能力の向上に資する程度の質と量が必要とする。学生は総括レポートを必ず指導教員および専攻長に報告し、そのレポートに記載された研究の進捗状況および学習内容は専攻において審査される。審査の結果「可」の判断が与えられた場合、1.0単位が付与される。	申請・許可が必要(特別演習)対面(オンライン併用型)

02DMD04	リサーチ・プログラム 特別開発4	2	1.0	1 - 3	秋ABC	応談	国際日本研究学位 プログラム全教員 (後期)	<p>本科目は英語等外国語による優秀な学術業績の成果産出を促す目的から開講するものであり、学生は指導教員および専攻長に履修の意思を示し、専攻教育会議において履修の適切性が審議・承認された場合において、その履修が認められる。</p> <p>学生は自らの研究テーマに関して、専攻長、指導教員、学位プログラム代表者等の指示する教材、文献、各種資料などを広く学習しつつ、海外の関連学会・シンポジウム・学術会議・公開講座等に参加のうえ発表をおこない、その発表詳細および学習成果について総括レポートを作成する。レポートは通常10回分の講義および予復習、外国語運用能力の向上に資する程度の質と量を必要とする。</p> <p>学生は総括レポートを必ず指導教員および専攻長に報告し、そのレポートに記載された研究の進捗状況および学習内容は専攻において審査される。審査の結果「可」の判断が与えられた場合、1.0単位が付与される。</p>	<p>申請・許可が必要(特別演習) 対面(オンライン併用型)</p>
02DMD05	リサーチ・プログラム 開発基礎3	2	1.0	1 - 3	春ABC	応談	国際日本研究学位 プログラム全教員 (後期)	<p>構成教員や主指導教員(副指導を含む)の協議をふまえ、国内外学会、シンポジウム、学術会議、公開講座などの研究教育に関連する活動等を企画運営または参画することを通じて、資料調査・サーベイ等による研究能力にとどまらず、運営事務や企画調整等のマネジメントおよびコミュニケーションといった実践能力の涵養を併せて図ることを目的とする。履修者は、その活動および成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録し、活動終了後に学位プログラムリーダーへ提出する。提出された「ノート」は教育会議に諮って審査し、合格が認められた者に1.0単位を付与する。</p> <p>本科目を適用できる活動は、原則として構成教員や主指導教員(副指導を含む)が教育会議に付議して認められた企画・活動に限るものとし、履修者はその活動の準備から終了まで積極的に参画すること。また、履修者の「ノート」は、通常10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当し、自らの研究活動に寄与する質量であることが望ましい。</p> <p>なお、早期修了希望・早期修了希望以外のいずれの学生であっても、教育会議の審議の結果、認められれば履修することができる。</p>	<p>履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。</p> <p>要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)</p>
02DMD06	リサーチ・プログラム 開発基礎4	2	1.0	1 - 3	秋ABC	応談	国際日本研究学位 プログラム全教員 (後期)	<p>構成教員や主指導教員(副指導を含む)の協議をふまえ、国内外学会、シンポジウム、学術会議、公開講座などの研究教育に関連する活動等を企画運営または参画することを通じて、資料調査・サーベイ等による研究能力にとどまらず、運営事務や企画調整等のマネジメントおよびコミュニケーションといった実践能力の涵養を併せて図ることを目的とする。履修者は、その活動および成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録し、活動終了後に学位プログラムリーダーへ提出する。提出された「ノート」は教育会議に諮って審査し、合格が認められた者に1.0単位を付与する。</p> <p>本科目を適用できる活動は、原則として構成教員や主指導教員(副指導を含む)が教育会議に付議して認められた企画・活動に限るものとし、履修者はその活動の準備から終了まで積極的に参画すること。また、履修者の「ノート」は、通常10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当し、自らの研究活動に寄与する質量であることが望ましい。</p> <p>なお、早期修了希望・早期修了希望以外のいずれの学生であっても、教育会議の審議の結果、認められれば履修することができる。</p>	<p>履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。</p> <p>要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)</p>

専門科目(国際日本複合研究領域学位プログラム)(平成27年度以降入学者対象)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02DML03	アジア的心身論2		1	1.0	1・2	秋B	集中	前林 清和	<p>東洋、特に日本では、物と心、あるいは神もこの自然の中に一緒に存在するという世界観がある。その中で、人間の心と身体についても一体的なものとして捉えるという伝統的な思想のありようがある。本授業では、日本を中心とするアジア人の心・身体のありようについて、西洋近代文化の影響を考察しつつ、東洋と西洋の間の差異についても考えてゆく。これを通して、近現代における東洋の社会の発展や変容と、東洋独特の心身観との間の関係について学ぶ。</p>	OABE590と同一。 詳細後日周知。対面、オンライン(同時双方向型)

02DMM07	情報社会・メディア・図書館	1	2.0	1-3	春AB	木3,4	研究室	後藤 嘉宏	メディア論におけるメディア史の時代区分に焦点を当てて論じる。講義担当者は中井正一のメディア論を研究している。したがってまず授業の前半部分は中井正一のメディア論におけるメディア史の時代区分について、中井の他の側面と照らし合わせながら、講義する。そのあと、アレント、マクルーハン、オング、ベンヤミン、フーコーなどの広い意味でのメディア論・言語論・芸術論におけるメディア史の時代区分との対比のなかで、中井の独自性あるいは限界を浮き彫りにする。授業は主に講義形式で行うが、講義形式での説明の前に、毎回上記論者の邦語邦訳書物を受講者の誰かが一冊読んで報告する。さらに上記論者に関する最新の英語文献、あるいは存命のメディア論者の英語文献をこちらで選び、報告して貰う機会も設ける。それらの部分は演習形式となる。	履修は図書館情報メディア専攻学生に限る。 02MA109と同一。
02DMM11	日本社会・政治とインターネット2	1	1.0	1-2	秋C	集中		渡辺 剛	地域情報化政策の観点から、社会の情報化について事例を交えて検証する。特に、地球社会における地域性のアイデンティティに注目する観点から、情報伝達手段の普及、特にインターネットが政治に与える影響について考察を進めてゆく。特に民主化とその後の選挙政治においてインターネットの影響が強くみられる国家を主たるケースとしながら、日本と比較をしつつ議論を進めてゆく。	OABE593と同一。 詳細後日周知。対面、オンライン(同時双方向型)
02DMP15	政治とインターネット3A	1	1.0	1-3					The main purpose of this course is to provide students with an overview of theories regarding the use of the Internet for political purposes, including political campaigns as well as advocacy and social movements. We will be focusing mainly on theoretical uses of the Internet supplemented by case studies in certain national milieu and for designated social topics.	西暦奇数年度開講。 英語で授業。 対面(オンライン併用型)
02DMP16	政治とインターネット3B	1	1.0	1-3					This course is a continuation of "Politics and Internet 3A" (02DMP15). During this course, the instructor will continue to provide students with an overview of theories regarding the use of the Internet for political purposes, including 21st century political campaigns as well as advocacy and social movements both using the Internet and about the Internet.	西暦奇数年度開講。 英語で授業。 対面(オンライン併用型)

専門科目(日本語教育学学位プログラム)(平成27年度以降入学者対象)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02DMW13	言語文化研究演習1A	2	1.0	1					日本語を中心として、日本語らしさの文法形式と談話や、それを分析するための言語研究や、日本語学習者に焦点を当てた学習者の日本語観察や、日本語教師の視点からの教授法など、日本語教育の応用を目指した研究を、先行研究を踏まえて、毎回決められた受講生が発表する。それを受けて、参加者間で議論を行う。発表者には、博士論文完成のため、他の受講者と徹底的な議論を行えるような、レジュメ作成技術を求め、受講者には批判的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。	西暦奇数年度開講。 OBBE814と同一。 対面
02DMW14	言語文化研究演習1B	2	1.0	1					日本語を中心として、日本語らしさの文法形式と談話や、それを分析するための言語研究や、日本語学習者に焦点を当てた学習者の日本語観察や、日本語教師の視点からの教授法など、日本語教育の応用を目指した研究を、先行研究を踏まえて、毎回決められた受講生が発表する。それを受けて、参加者間で議論を行う。発表者には、博士論文完成のため、他の受講者と徹底的な議論を行えるような、レジュメ作成技術を求め、受講者には批判的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。「言語と行動理論研究1A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦奇数年度開講。 OBBE815と同一。 対面
02DMW15	言語文化研究演習2A	2	1.0	2	春AB	金3		小野 正樹	日本語を中心として、日本語らしさの文法形式と談話の流れや、それを分析するための言語研究や、日本語学習者に焦点を当てた学習者の日本語観察や、日本語教師の視点からの教授法など、日本語教育の応用を目指した研究を、先行研究を踏まえて、毎回決められた受講生が発表する。それを受けて、参加者間で議論を行う。発表者には、博士論文完成のため、他の受講者と徹底的な議論を行えるような、ハンドアウト作成技術を求め、受講者には批判的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。「言語と行動理論研究1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OBBE816と同一。 対面(オンライン併用型)

02DMW16	言語文化研究演習2B	2	1.0	2	秋AB	金3		小野 正樹	日本語を中心として、日本語らしさの文法形式と談話の流れや、それを分析するための言語研究や、日本語学習者に焦点を当てた学習者の日本語観察や、日本語教師の視点からの教授法など、日本語教育の応用を目指した研究を、先行研究を踏まえて、毎回決められた受講生が発表する。それを受けて、参加者間で議論を行う。発表者には、博士論文完成のため、他の受講者と徹底的な議論を行えるような、ハンドアウト作成技術を求め、受講者には批判的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。「言語と行動理論研究1A, 1B, 2A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。OBBE817と同一。対面(オンライン併用型)
02DMW21	社会言語研究演習1A	2	1.0	1					会話分析の研究に対する批判の一つとして、順番取りや行為連鎖などとフォカスがあまりにもマイクロのせいで、その会話が置かれているいわゆる「コンテキスト」を見落とすがちだということである。会話分析では「コンテキスト」という概念がどのように捉えられるか、またコンテキストに関わる情報を記述しようとするエスノグラフィー的な研究手法とどのような関係を持つ可能性があるのかについて考えるために、会話分析とエスノグラフィーの相性について論じる研究や、会話分析とエスノグラフィーの手法を併用する「マイクロエスノグラフィー」の研究を取りあげる。授業では対象文献の内容を丁寧に確認し、ディスカッションをすることによって理解力を深める。また、受講生は各自でデータを集め、マイクロエスノグラフィー的な手法を用いて小規模な研究プロジェクトを遂行する。最後にその成果をレポートにまとめて提出する。	西暦奇数年度開講。OBBE826と同一。対面(オンライン併用型) 奇数年の春ab、月6
02DMW22	社会言語研究演習1B	2	1.0	1					エスノメソドロジー的な研究によって、第2言語学習に関する研究に対してどのような見解が提供できるかを検討していきながら、特にSacks (1972a, 1972b, 1979, 1995)によって提唱され、Watson (1978, 1997)やJayyusi (1984)、Hester & Eglin (1997)、Stokoe (2012)、Bushnell (2014)、Fitzgerald & Housley (2015)などによってさらに展開されてきている成員カテゴリー化分析の基本的な考え方や分析の技術を身につけることを狙う。	西暦奇数年度開講。OBBE827と同一。対面(オンライン併用型) 奇数年の秋ab、月6
02DMW23	社会言語研究演習2A	2	1.0	2	春AB	月5	共同 A604	ブッシュネル ケード コンラン	ことばと行為のマイクロ分析研究2Aと2Bでは、1Aと1Bなどで身につけた分析技術を駆使して、一学年を通して教員と受講生全員やその他の協力研究者、院生で分担して英語でオリジナルな研究を論文の形にまとめて共著で実際に投稿することを目標とする。2Aでは特に先行研究を吟味して自分たちで執筆する論文に使うデータや研究課題を検討しつつ毎週の発表で進捗状況を報告していく。	西暦偶数年度開講。OBBE828と同一。対面(オンライン併用型) 偶数年の春ab、月6
02DMW24	社会言語研究演習2B	2	1.0	2	秋AB	月5	共同 A604	ブッシュネル ケード コンラン	ことばと行為2Bでは、2Aから進めてきている研究を継続しさらに発展させ、共同で一本の論文を英語で執筆する。最終的には適切な投稿先を決め実際に投稿してみることを目指す。	西暦偶数年度開講。OBBE829と同一。対面(オンライン併用型) 偶数年の秋ab、月6
02DMW29	日本語教育プログラム演習1A	2	1.0	1 - 3					受講生は、「日本語教育学プログラム演習1B」をふまえ、自分自身の博士論文完成を目的として、日本語教育学に関わる研究を、Power pointなどを用いた口頭発表と、ポスター形式で発表する。発表内容は「日本語教育学プログラム演習1A」「同1B」と異なるものとする。初めに、口頭発表で研究内容をアピールし、ポスターで詳細に議論する形式をとる。教員・院生が一体となって議論を行うことで、課題設定、分析方法の適性、現象の結果の真偽等を議論し、研究の深化を図る。受講者には、口頭発表の技術をしっかりと理解することを求める。加えて、学会などの運営手法も学ぶことも求め、プログラム作成、司会も担当する。	西暦奇数年度開講。OBBE802と同一。2024年度開講せず。対面(オンライン併用型)
02DMW30	日本語教育プログラム演習1B	2	1.0	1 - 3					受講生は、「日本語教育学プログラム演習2A」をふまえ、自分自身の博士論文完成を目的として、日本語教育学に関わる研究を、Power pointなどを用いた口頭発表と、ポスター形式で発表する。発表内容は「日本語教育学プログラム演習1A」「同1B」「同2A」と異なるものとする。初めに、口頭発表で研究内容をアピールし、ポスターで詳細に議論する形式をとる。教員・院生が一体となって議論を行うことで、課題設定、分析方法の適性、現象の結果の真偽等を議論し、研究の深化を図る。受講者には、口頭発表の技術をしっかりと理解することを求める。加えて、学会などの運営手法も学ぶことも求め、プログラム作成、司会も担当する。	西暦奇数年度開講。OBBE803と同一。2024年度開講せず。対面(オンライン併用型)

02DMW33	日本語教育プログラム 演習3A	2	1.0	1 - 3							受講生は、自分自身の博士論文完成を目的として、日本語教育学に関する研究を、Power pointなどを用いた口頭発表と、ポスター形式で発表する。初めに、口頭発表で研究内容をアピールし、ポスターで詳細に議論する形式をとる。教員・院生が一体となって議論を行うことで、課題設定、分析方法の適性、現象の結果の真偽等を議論し、研究の深化を図る。受講生には、口頭発表の技術をしっかりと理解することを求める。加えて、学会などの運営手法も学ぶことも求め、プログラム作成、司会も担当する。	西暦偶数年度開講。 OBBE800と同一。 2024年度開講せず。 対面(オンライン併用型)
02DMW34	日本語教育プログラム 演習3B	2	1.0	1 - 3							受講生は、「日本語教育プログラム演習1A」をふまえ、自分自身の博士論文完成を目的として、日本語教育学に関する研究を、Power pointなどを用いた口頭発表と、ポスター形式で発表する。発表内容は「日本語教育プログラム演習1A」と異なるものとする。初めに、口頭発表で研究内容をアピールし、ポスターで詳細に議論する形式をとる。教員・院生が一体となって議論を行うことで、課題設定、分析方法の適性、現象の結果の真偽等を議論し、研究の深化を図る。受講生には、口頭発表の技術をしっかりと理解することを求める。加えて、学会などの運営手法も学ぶことも求め、プログラム作成、司会も担当する。	西暦偶数年度開講。 OBBE801と同一。 2024年度開講せず。 対面(オンライン併用型)
02DMW37	相互行為分析研究1A	2	1.0	1							社会学者のHarvey Sacks, Emanuel Schegloff, Gail Jeffersonらによって開発された、相互行為組織の研究法である「会話分析」において、最も重要な分析概念の一つである「行為形成(action formation)」に関連する主要文献を精読し、議論することによって正確な理解を深める。また、各論文における記述や主張が、実際の日本語における社会的行為の産出と理解についての記述にどのように適用可能かを検討する。これらの作業を通して、社会的行為を産出し、理解するというのはいかなることかという根源的問いに対する洞察を深める。	西暦奇数年度開講。 OBBE306と同一。 オンライン(対面併用型)
02DMW38	相互行為分析研究1B	2	1.0	1							社会学者のHarvey Sacks, Emanuel Schegloff, Gail Jeffersonらによって開発された、相互行為組織の研究法である「会話分析」の理論的背景・視点・方法的意義等について、重要文献を中心に精読し、議論することによって正確な理解を深める。また、その理解を踏まえた上で、モデルとなる先行研究論文を具体的に検討することを通して、会話分析的研究として論文を作成する際のポイントについて学ぶ。さらに、受講生自身が執筆中の研究論文について、相互に検討・討議し、質の高い投稿論文に仕上げる技術を身につける。	西暦奇数年度開講。 OBBE307と同一。 オンライン(対面併用型)
02DMW39	相互行為分析研究2A	2	1.0	2	春AB	金4	共同 A604	高木 智世			社会学者のHarvey Sacks, Emanuel Schegloff, Gail Jeffersonらによって開発された、相互行為組織の研究法である「会話分析」において重要な分析概念を提示した基本文献を精読し、議論することによって、会話分析の手法について正確な理解を深める。また、各論文における記述や主張が、実際の日本語における社会的行為の産出と理解についての記述にどのように適用可能かを検討する。これらの作業を通して、社会的行為を産出し、理解するというのはいかなることかという根源的問いに対する洞察を深める。「相互行為分析研究1A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OBBE308と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMW40	相互行為分析研究2B	2	1.0	2	秋AB	金4	人社 A201	高木 智世			社会学者のHarvey Sacks, Emanuel Schegloff, Gail Jeffersonらによって開発された、相互行為組織の研究法である「会話分析」の理論的背景・視点・方法的意義等について、重要文献を中心に精読し、議論することによって正確な理解を深める。また、その理解を踏まえた上で、モデルとなる先行研究論文を具体的に検討することを通して、会話分析的研究として論文を作成する際のポイントについて学ぶ。さらに、受講生自身が執筆中の研究論文について、相互に検討・討議し、質の高い投稿論文に仕上げる技術を身につける。「相互行為分析研究1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OBBE309と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMW41	日常会話のエスノグラ フィー1A	2	1.0	1							文化社会的な場に埋め込まれた実践行動としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して記述/解釈する方法について学ぶ。また英語と日本語のエスノグラフィーのケーススタディ論文を読み、それを土台として議論を行う力を養う。受講者各自がデータ収集を行う(フィールドワークと相互行為の文字化)体験を通して、自律的にコミュニケーションを分析する方法を学ぶ。	西暦奇数年度開講。 OBBE302と同一。 対面(オンライン併用型)

02DMW42	日常会話のエスノグラフィー1B	2	1.0	1				文化社会的な場に埋め込まれた実践行動としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して記述/解釈する方法について学ぶ。また英語と日本語のエスノグラフィーのケーススタディ論文を読み、それを土台として議論を行う力を養う。受講者各自がデータ収集を行う(フィールドワークと相互行為の文字化)体験を通して、自律的にコミュニケーションを分析する方法を学ぶ。「コミュニケーションの人類学1A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦奇数年度開講。 OBBE303と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMW43	日常会話のエスノグラフィー2A	2	1.0	2	春AB	木4	井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行動としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して記述/解釈する方法について学ぶ。また英語と日本語のエスノグラフィーのケーススタディ論文を読み、それを土台として議論を行う力を養う。受講者各自がデータ収集を行う(フィールドワークと相互行為の文字化)体験を通して、自律的にコミュニケーションを分析する方法を学ぶ。「コミュニケーションの人類学1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OBBE304と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMW44	日常会話のエスノグラフィー2B	2	1.0	2	秋AB	木4	井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行動としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して記述/解釈する方法について学ぶ。また英語と日本語のエスノグラフィーのケーススタディ論文を読み、それを土台として議論を行う力を養う。受講者各自がデータ収集を行う(フィールドワークと相互行為の文字化)体験を通して、自律的にコミュニケーションを分析する方法を学ぶ。「コミュニケーションの人類学1A, 1B, 2A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OBBE305と同一。 対面(オンライン併用型)